

令和 4 年 6 月 21 日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2021

課題番号：18K01874

研究課題名(和文) 伝統産業、観光等の地域発起業家の新市場創造におけるエフェクチュエーション

研究課題名(英文) Effectuation in the creation of new markets for traditional industries, tourism, and other local entrepreneurs.

研究代表者

若林 靖永 (Wakabayashi, Yasunaga)

京都大学・経営管理研究部・教授

研究者番号：70240447

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：おもな研究成果として、第1に、5つの上場企業の起業家にインタビュー結果からは、新市場の発見は、A顧客(自らを含む)からの問いかけ・要望・苦情対応というスタイル、B既存業界への反発というスタイル、C将来の大局的な変化というトレンドを見通したビジョン・ドリブンのスタイルの3つを見出した。第2に、富山県南砺市井波で展開されている宿泊施設Bed and Craft事業についてのインタビューを実施し、その展開を「出来事年代記」にまとめ、エフェクチュエーションの具体的なプロセスとして分析し、加えて自らのアイデンティティの構築・再構築が大きな役割を果たしていることを明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

人口減少下での地域社会の発展において、地域発起業家への期待は大きい。本研究成果はまだその端緒ではあるが、地域発起業家がいかにしてその可能性を見出し実行しその結果から学んでさらなる発展を遂げていくのか、それをもたらす行動原理と環境、支援策を明らかにすることにつながるという社会的意義がある。さらに本研究は、エフェクチュエーションとして見出された行動原理が、どのようなアイデンティティにもとづくのか、どのような環境や支援策のもとで展開されていくのか、といったエフェクチュエーションの理論的構造を具体化していくことに貢献するという学術的意義を持っている。

研究成果の概要(英文)：The main findings of the study are as follows.

First, interviews with entrepreneurs in five publicly traded companies revealed three styles of discovering new markets: (1) a style that responds to customers' (including their own) questions, requests, and complaints; (2) a style that rebels against existing industries; and (3) a vision-driven style that looks at trends in terms of future big-picture changes. Second, we conducted interviews with the Bed and Craft lodging business in Inami, Nanto City, Toyama Prefecture, and summarized its development in the "Chronicle of Events," analyzing it as a specific process of effectuation, and clarifying that the construction and reconstruction of one's own identity plays a major role. In addition, it was clarified that the construction and reconstruction of one's own identity plays a major role.

研究分野：商業

キーワード：起業 伝統産業 観光 地域社会 エフェクチュエーション サービスデザイン

1. 研究開始当初の背景

21世紀の地球社会が直面している諸課題を解決していくためにはマーケティングの革新もまた求められている。20世紀に体系化・制度化されたマーケティング・マネジメントは、交換パラダイムを基礎に、市場細分化-標的設定-ポジショニング-4P(行動計画)という枠組みを確立した。しかしながら、グローバル競争、新興国企業の躍進、ICTイノベーションといった新時代の中で、上記の枠組みの有効性は限定的なものになり、起業(家)による市場創造のもたらすインパクトが増大している。したがって、この新しいマーケティングのパラダイムとも言える起業(家)による市場創造のスタイルである「エフェクチュエーション」に焦点を当てた学術的研究をすすめることがこれからのマーケティング研究の方向性であると位置づけられる。

研究課題の核心をなす学術的「問い」の中心もそこにある。つまり、これまでのマーケティング理論およびマーケティング実践が暗黙ないし明示的に仮定してきた「市場」の存在、それにもとづく市場調査、顧客志向というマーケティングの中心的コンセプトを疑うという点にある。国内では石井淳蔵がポストモダンのマーケティング思考にもとづいて、市場が行為以前に存在しているということについて疑念を提示した。近年ではサービスドミナント・ロジックなど、市場もニーズも「共創」的なプロセスにおいて実現するものであるという認識論が広く提示されるようになってきた。

本研究では、このような思想的な「転換」の文脈の上で、地域の未来を創造する起業家の行動分析を通じて、新市場を創造するパターンを明らかにするものである。この問いはさらに2つの問いに分けられる。第1の問いは「見えない市場」をいかに発見するのか、という問いである。第2の問いは、「発見された市場」をいかにして「見える化」して他者とのネットワーキングを展開するか、という問いである。

2. 研究の目的

本研究の目的は、市場創造の新しいパターンとしての「エフェクチュエーション」(サラス・サラスバシー教授)のモデルにもとづいて、伝統産業、観光、小売商業などの地域発の起業、事業創造のプロセスを解明することである。理論的には、マーケティングのイノベーションとして起業を理論化し、実務的には、それにもとづく地域創生等の展開をめざしている。

第1の研究課題は、起業家による新市場発見および発見された市場の「見える化」のパターンを明らかにするという点である。本研究では、それをおもに伝統産業、観光等の地域発起業家に注目して展開する。

第2の研究課題は、シンク・アラウド法の開発・改善である。起業家の行動原理を探求するための研究方法として起業家の実際の企業事例を研究することは、必ずしも「生きた」起業家の意思決定を分析対象としてはいない。起業家の「生きた」意思決定プロセスを探求するために採用されたシンク・アラウド法はますます研究活用することが求められる。

第3の研究課題は、エフェクチュエーションの原理的理解を深めることである。エフェクチュエーションは起業家の意思決定原理として明らかにされたものであるが、その哲学的基礎を深めることで、経営科学研究に貢献することが期待される。

3. 研究の方法

第1の研究課題である起業家による新市場発見および発見された市場の「見える化」のパターンについては、おもに伝統産業、観光等の地域発起業家に注目してインタビュー調査等を実施する。

第2の研究課題であるシンク・アラウド法の開発・改善については、これまでのシンク・アラウド法を活用した研究についてレビューし、その課題を明らかにし、そこから改善案を策定し試行することで検証していく。

第3の研究課題であるエフェクチュエーションの原理的理解については、おおむね文献研究が中心となる。それをふまえて内外のエフェクチュエーション研究者との交流・議論をすすめる予定であったが、新型コロナウイルスの感染拡大により、ほぼ展開できなかった。

4. 研究成果

これまでのおもな研究成果は下記の通りである。

(1) 起業のアプローチでの少子・高齢化、人口減少社会への対応についての調査研究結果をとりまとめて、『2050年 新しい地域社会を創る（公益財団法人生活協同組合総合研究所編、東信堂）』を出版した。本研究では、地域の人たち自身の取組として、地域の人たちのリソースを活用して、地域の人たちのニーズを「発見」していくことが重要であるとして、地域でのワークショップ型のアプローチを提案した。

(2) 起業家へのインタビュー調査を通じて、起業における新市場・新事業創出プロセスについての探究を行い、そのパターンの特徴を明らかにして、商品開発・管理学会全国大会（2019年3月）で報告を行った。本研究では、佐藤善信『企業家精神のダイナミクス』における「企業家的発見」、サラスバシー『エフェクチュエーション』における「新市場の創造」に注目し、5つの上場企業の起業家にインタビューを設計し実行した。今回の5つのインタビュー結果からは、新市場の発見は、A顧客（自らを含む）からの問いかけ・要望・苦情対応というスタイル、B既存業界への反発というスタイル、C将来の大局的な変化というトレンドを見通したビジョン・ドリブンのスタイルの3つを発見した。

(3) 起業家へのインタビュー調査を通じて、特に流通におけるイノベーションのパターン類型を明らかにし、流通学会全国大会（2019年）で発表した。流通イノベーションのパターンには、マッチングにおけるイノベーション、価格情報の提供というイノベーション、新取引形態の創造というイノベーションに分類できるという見解をまとめ発表した。流通イノベーションの包括的な枠組みとしてはまだ不十分であるが、イノベーションの方向性を示したと言える。

(4) 新型コロナウイルスの感染拡大の状況という大きな社会的課題に直面する中での起業・イノベーションに注目して、株式会社ニューネクスト社による「ジョキンザウルス」についての調査を行った。その研究成果は、商品開発・管理学会全国大会（2021年3月）で「コロナ禍の問題・課題に取り組む商品開発とそれを可能としたビジネスモデル - 「ジョキンザウルス」の事例-」と題して研究報告を行った。スーパーでの買い物カゴを大量に除菌する装置を短期間で開発したプロセスを分析し、このような開発に取り組めた最大のポイントが、ニューネクスト社が開発専門の「開発・試作・事業発明サービス」のビジネスモデルに転換し、取引ルール、開発費負担、知財処理などでの工夫にある点を明らかにした。

(5) コロナ禍のもとで京都市の伝統産業従事者がどのような対応をすすめているか、緊急調査（京都市）を実施し、その集計分析に取り組んだ。伝統産業事業者の経営への影響は大きく、売上が大幅に減少している事業者が少なくない。他方で、EC（電子商取引）など積極的な販売拡大に新たに事業転換するなどしたところなどは、経営業績を大きく改善することにつながっ

ていることが明らかとなった。研究成果については、現在、投稿準備中である。

(6) 橋本憲一と共同で、京料理の理論的探究に向けての試みとして、アブダクティブ・サービスデザインの枠組みを形成し、それを元に京料理の具体的な不思議の解明を行った。その成果は『和食文化研究』第4号(2021年12月)に掲載された。

(7) 鎌田直美(京都大学経営管理大学院2年)と共同で、株式会社コラリアルチザンジャパン(本社:富山県南砺市井波)代表の、建築家・山川智嗣氏が展開する宿泊施設 Bed and Craft 事業についてのインタビューを実施し、その展開を「出来事年代記」(田村正紀)にまとめ、エフェクチュエーションの具体的なプロセスとして分析した。その成果は現在投稿準備中である。

(8) 瀬戸川淳美(京都大学経営管理大学院2年)と共同で、米国「1Hotel Central Park」に関する宿泊客の、トリップアドバイザーに書き込まれた口コミデータを元にテキスト分析を行い、宿泊施設はサステナブルな旅行を求める宿泊客にどのような情報発信をすべきか、宿泊施設にサステナブルを求める宿泊客のサステナブルの満足要因は何か、サステナブルを評価する宿泊客にはどのような特徴があるか、について明らかにした。その成果も現在投稿準備中である。

(9) 京都ものづくりバレー構想の研究と推進寄附講座(京都大学経営管理大学院)の代表責任者として活動し、2022年3月12日、妙心寺退蔵院(京都市)でシンポジウム(オンライン)を開催し、「エフェクチュエーション都市とは」というテーマで、サラス・サラスパシー教授が講演を行い、パネルディスカッションに参加した。この成果の公表についても準備している。

おもな研究成果は以上であるが、総括的にみると、起業家による新市場発見および発見された市場の「見える化」のパターンを明らかにするという第1の研究課題については、伝統産業、観光等の起業家に注目したインタビュー調査を実施し、研究成果を出してきた。これに対し、シンク・アラウド法の開発・改善という第2の研究課題については成果を生み出していない。また、エフェクチュエーションの原理的理解については一定文献研究をすすめたが、まだその成果はまとめられておらず、また、コロナ禍によって海外への渡航が難しくなったため海外の研究者との交流・議論もすすんでいない。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 橋本憲一・若林靖永	4. 巻 4
2. 論文標題 京料理におけるサービスデザイン	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 和食文化研究	6. 最初と最後の頁 76-100
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計5件（うち招待講演 1件/うち国際学会 1件）

1. 発表者名 若林靖永
2. 発表標題 コロナ禍の問題・課題に取り組む商品開発とそれを 可能としたビジネスモデル - 「ジョキンザウルス」の事例 -
3. 学会等名 商品開発・管理学会 第35回全国大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 若林靖永
2. 発表標題 スタートアップにみられる 流通イノベーションのパターン
3. 学会等名 日本流通学会第33回全国大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 竹野豊・若林靖永
2. 発表標題 流通業における従業員満足度とその影響に関する分析
3. 学会等名 日本流通学会第33回全国大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 若林靖永
2. 発表標題 起業における新市場・新事業コンセプト発見の方法に関する事例研究
3. 学会等名 商品開発・管理学会 第31回全国大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 若林靖永
2. 発表標題 Me and Our Experiences on critical thinking(TOC for Education)
3. 学会等名 critical thinking congress (Gdansk, Poland) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 公益財団法人人生協総合研究所編	4. 発行年 2018年
2. 出版社 東信堂	5. 総ページ数 182
3. 書名 2050年 新しい地域社会を創る	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------